



あした

明日もしあわせ通信 (第68号) 令和4年2月号

VAN ジャケットよ、永遠なれ

昨年末、娘の指揮のもと、我が家の断捨離を敢行した。メインターゲットは3つのクローゼットに溢れている私の衣類である。

“今着られるもの以外は廃棄せよ”との指示により、残ったのはほぼ1/5。しかし、着られないけど、どうしても捨てられないものがあつた。

フラノのネイビーブルー、段返り、金の三つボタン、センターフックベント、胸にはエンブレム。伝説の「VAN」のブレザーである。半世紀前に若者に流行した“アイビールック”の象徴でもある。大学時代を共に過ごした。



いくつもの思い出が染み込んでいます。いつ着たのか、どこへ行ったのか、誰と一緒にいたのか、どういう話をしたのか、何を食べたのか、どういう音楽が流れていたのか、泣いていたのか、笑っていたのか。重層的に記憶が残されている。時には甘酸っぱく、時にはほろ苦く。

今日、大量の衣類が廃棄されている。社会が豊かになり、相対的に衣類が買いやすくなった。安価で機能的に優れている衣類を大量に求め、ためらうことなく廃棄する。

その背景には、デザインの流行り廃りもあるだろうし、私のように体型の変化もあるだろう。思い出のシーンはスマホに記憶されラインで共有される。

「おまえたちはいいよなあ。」
ストーブの傍らで居眠りしている愛犬と愛猫をそっと撫でる。

流行には無関係のデザイン、天然素材の毛皮は季節ごとに換毛して新しく生まれ変わり、年々変化していく体型にも自動的にリサイズ。

“なぜニンゲン(人間)は体毛を捨てたのか？”
その理由はわからないが、とても勿体ない進化ではなかったか。彼女たちをみてそう思う。
(T.K)

～はばたき教室～ 漢字で気持ちを表現

昨年(令和3年)の日本漢字能力検定協会での「今年の漢字」は「金」でした。はばたき教室の子どもたちも、令和3年と令和4年の思いを漢字一文字で書きました。

子どもたちが書いた漢字一文字からは、決意やその文字に託された思いが感じとれました。それぞれの思いを大切に、しっかりと支援していきたいと思います。その一部を紹介します。

氏名	令和3年の一文字とその理由	令和4年の一文字とその理由
A	「頑」自分なりに頑張ることができた1年だった。	「勇」高校という新しい環境で、今度こそ勇気を出して頑張りたい。
B	「楽」今まで生きてきた中で、今年が一番楽しい1年間だった。	「進」これからはくじけずしっかり進んでいきたい。
C	「辛」辛いことが沢山あった1年だった。	「進」学校にも少しずつ行けるように心を休めて進んでいきたい。
D	「無」何もしないで止まっていた1年だった。	「楽」どんなに大変でも、楽しく生きていきたい。
E	「歯」大切な歯が抜けて、生え変わるのを待った1年だった。	「健」毎日元気で、健康に過ごしたい。

注目のパワー

お正月に久々に孫が来ました。「じーじ、ばーば、見て！見て！」と、四六時中の見て！見て！攻撃。

自分ができるようになったことを自慢げに見せます。「すごいね。やるねー。」

アンパンマンのビデオを見ていても、「見て！見て！アンパンチしてる！」同じものを見て、共有しながらの会話を楽しそうに話す。

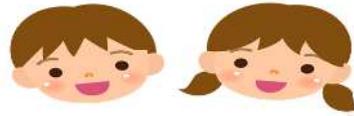
見て！見て！攻撃に、じーじは部屋から抜け出す始末。

あまりの攻撃に「ちょっと待ってね」と言いたい気持ちも、しょんぼりする孫の顔を思うと、要求に応えざるを得ません。

他者からの肯定的な注目（ほめる、認める、笑顔を返す）は、大人の私たちでも嬉しいことですよね。

子どもが成長していくうえで、この肯定的な注目はとても大切なことです。とりわけ、子どもは親や大人から得る注目を何よりも欲しています。良い行動への注目は良い行動を強化させるパワーにつながります。

忙しい日常生活の手を少し休めて、しっかり子どもに注目して、ほめてみてください。そこには、満面の笑顔あふれる子どもがいます。（1）



センター長のつぶやき

最近の読書から(3) 「ヴァイタル・サイン」

医師の南杏子さんが、コロナ禍1年目の過酷な看護現場を描いた作品。主人公は、二子玉川グレース病院に勤める看護師・堤素野子。素野子は認定看護師を目指しながら、生意気な看護師・桃香らの教育係を務める。

素野子は、日勤、準夜勤、夜勤の3交代制で働き、患者の入浴、検温、血圧測定、おむつ交換、医師の診療介助、採血検査、点滴などこなしていく。心身共に疲弊する中、クレーマーに近い患者もいて、彼女たちのストレスはピークに達する。

名門医科大出身の桃香は、嫌がらせをする患者を殺めそうになるが、素野子の機転で未遂に終わる。その素野子も、医者である恋人から、会うこともなかなかできない関係から、別れを告げられ、追い詰められていく。医療・看護現場の現実に思わず胸が締め付けられる。

しかし、その彼女らが最終盤に屋上から付近を見下ろすと、日常とは違った風景が広がっていた。

「病院のみなさん ありがとう」「ドクター、ナースの皆さん がんばって！」「コロナに負けないで がんばってください わたしたちもがんばります」そこから見える小・中・高・看護専修学校、さらに、郵便局、教会、幼稚園などの屋上や窓辺に並ぶ文字が、次々に目に飛び込んでくる。素野子たちは、眼下の風景にくぎづけとなった。

気が付くと桃花が顔を両手で覆っていた。「わたし辞めないで頑張ってみます」

主人公たちが過酷な現実に立ち向かう決意とともに物語は終る。

第6波も現実になりつつある今、あらためて医療現場の皆様へ感謝の念でいっぱいになった。

(DOIG)



巡回発達相談

上手なほめ方、叱り方

『子育てに役立つ心理学』という講座名に惹かれ大学での講座に参加しました。

ほめられると誰でも嬉しい、ほめられると心のエネルギーがたまり自信ができる、意欲がわいて自己肯定感が育つと教わりました。ほめるということは「認める」ということでした。「できたね！えらかったね」と言うと子どもは続けてやろうと頑張ります。

「叱る」ということは「しつけ」です。しつけとは、仕付け（仮の縫い付け）＝躰。うまくいくやり方を順序よく教えて、できることを増やしていくことです。

子どもがわかるように、短い言葉でゆっくりと伝えるのが叱るということです。そこに感情「怒る」は必要ありません。子どもたちを上手にほめて叱って子育てを楽しんでほしいと思います。園の先生方のほめ方を見習ってみるのもお勧めです。（K）



伊予市子ども総合センター

伊予市尾崎3-1

総合保健福祉センター2階

(電話) 089-989-6226

